

令和 3（2021）年度学校法人智香寺学園事業計画

I. 法人の部

昨年度改正された私立学校法に基づき、法人として更なる運営基盤の強化を図るとともに、教育の質の向上及びその運営の透明性の確保に努めていきます。

明治 36（1903）年の東京商工学校創立以来、経営体制や教育内容などの大きな変遷を経ながらも教育機関としての使命を全うすべく、教育研究活動を行って参りました。変化のスピードが速い現在においては、ICT 技術の進化、価値観の多様化、社会の仕組みの変化などにより、学校そのもののあり方も含め、学ぶということについての多様性が進んでいます。様々な外部環境の変化が激しい今、従前と同じことを続けていたのでは、組織の進化発展は望めません。もちろん守るべき伝統もあります。逆に、時代に合わせて変えていかなければならないこともあります。本学園は仏教の教えを建学の精神に掲げております。仏教の目的である智慧と慈悲の実践される社会の構築を目指し、本学園はこれから何をすべきなのか、その具体的な方向を示すために新しい中長期計画の策定を予定しています。

埼玉工業大学では、5 年前に「中長期ビジョン 2016－2020」を策定しています。その中で、まだ実現できていないこと、そして新たな課題として出てきたものなどを加味し、正智深谷高等学校を含めた学園全体として新しい中長期計画を掲げます。

- ・ 学生生徒に主体性をもって学んでもらうために、何をすべきか
- ・ 誰もが学びやすく、働きやすい学園とするために何をすべきか
- ・ 多様性を尊重し、様々な学園構成メンバーに活躍してもらうために、何をすべきか
- ・ 大学間連携や産学官連携など、外部機関との連携を強化し、学園の発展と地域貢献に資する為に何をすべきか
- ・ 入学者数の確保と同時に、学生生徒納付金以外の収入を増やし、安定した財務基盤を構築するために何をすべきか

これらの課題を解決するために、なすべきことは山積ですが、不断の決意で学園一体となって邁進していきます。そして、地域社会から愛され、必要とされる学園を目指します。

また、継続して「教育研究充実・学生諸活動等助成資金」による寄附活動を進めていきます。

II. 大学の部

1. 中長期ビジョン策定の背景

大学は、昭和 51（1976）年に聖橋工業高等専門学校を前身として開学してから 40 余年という歩みの中、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。また、グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、大学には、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合い、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。こうした状況の中で、埼玉工業大学は、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、新たに将来計画に関わる中長期ビジョン検討会を設置し、その実現に向けてどう取り組んでいくのか、来る令和 9（2027）年を見据えたビジョンの策定を行います。

今後の目標

平成 22（2010）年以降、幸いなことに大学の入学定員を継続的に満たしてきているが、離籍率の減少や就職率の増加についても真摯に取り組んでいかねばならないと考えています。そこで、新しい中長期ビジョンを実現するため、その判断材料として、次の目標を定めます。

1. 入学定員の確保 100%+α
2. 離籍率（1年間）3%以下
3. 就職率 95%以上
4. 大学院進学率 10%以上
5. 健全な財務の実現
6. 新時代を担う技術の開発と社会への還元

この目標を達成するための戦略として、入学戦略、教育改革・学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域と大学との連携戦略、研究活動活性化戦略、管理運営体制強化戦略の6項目を掲げ、その具体的な取組みを実施していきます。

2. 自己点検評価

昨年度から4度目の認証期間がスタートした公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）について、協会より指摘のあった部分に対して自己点検作業を継続的に実施し、改善に取り組んでいきます。

- ・ 認定期間は令和2（2020）年4月1日から令和9（2027）年3月31日までの7年間
- ・ 認証期間等の詳細等は、本学ホームページにて広く一般に周知します。

3. 学部教育

少子高齢化社会により大きな構造変化を迎える日本社会で活躍できる人材育成を行うことが大学に課せられた重要な使命です。これまで行ってきたアクティブラーニングに加え、ものごとの本質を見抜き、正確で客観的なデータに基づく判断能力を持った人材育成を行えるような教育改革を進めます。

4. 学生支援

本学は、仏教精神を基盤に学生一人ひとりが意欲を持って学業や課外活動に取り組むことができる環境を整備し、学習支援、学生相談、ハラスメント相談、障害者支援、経済的支援等の支援を充実させ、相互の人格を尊重し合い切磋琢磨しながら学べる教育環境の確立を目指します。

5. 学生募集計画

令和3（2021）年度生の学生募集は現在進行中であり結果は出ていないが、令和3（2021）年度入試においては、コロナ禍の影響により前年に比べ志願者の減少が予想される。志願者増のために、広報に値する大学内部の教育システムの充実、新しい先端分野への取り組みなどを積極的に実施し、これらの成果を広く社会に向けて発信していくことが極めて大切であると考えられる。全学一丸となって学生確保に邁進したい。

6. 新棟建設

機械工学科の活発な実験・実習・研究を支援する新しい新棟「機械工学科総合実験実習棟」を令和4（2022）年完成予定で建設を開始します。

（右図：完成予想図）



(A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
機械工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
情報システム専攻	7名	心理学専攻	10名
生命環境化学専攻	7名		
小計	20名	人間社会研究科合計	25名
(博士後期課程)			
機械工学専攻	2名		
情報システム専攻	2名		
生命環境化学専攻	2名		
小計	6名		
工学研究科合計	26名		

(B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	
(機械工学専攻)	80名	(経営システム専攻)	50名
(ロボット・スマート機械専攻)	40名	(メディア文化専攻)	40名
計	120名	計	90名
生命環境化学科		心理学科	
(バイオ・環境科学専攻)	54名	(ビジネス心理専攻)	20名
(応用化学専攻)	36名	(臨床心理専攻)	30名
計	90名	計	50名
情報システム学科		人間社会学部合計	140名
(IT専攻)	70名		
(AI専攻)	40名		
(電気電子情報専攻)	40名		
計	150名		
工学部合計	360名		

7. 授業実施計画

令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の不安の中、大きな混乱なく授業を終えることができました。この1年間で蓄積・共有した経験と知見を踏まえ、学生にできるだけ多くの登校機会を提供できるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、令和3(2021)年度における授業実施については、原則として実験、実習、演習、卒業研究については、対面型で授業を実施します。その他の科目についてはハイフレックス型の授業を実施します。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況の推移等によっては、授業の実施方法を変更することもあり得ますが、本学としては、これからも学生、保護者の皆様方ならびに教職員の生命、健康、安全を第一に考え、学生の学ぶ機会を確保するための取り組みを行ってまいります。

◎令和3（2021）年度の授業実施方法は、以下のAとBの方法を予定

A. 対面授業

教員と学生が同じ教室で授業を行う。

B. ハイフレックス授業

対面授業とオンライン授業を同時に行う。

教室で行われる対面授業の内容がリアルタイムにオンラインでも配信されます。

学生は対面で受講するか、オンラインで受講するかが選択できます。

8. 研究計画

①科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※令和2（2020）年度 科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	令和2年度 直接経費	令和2年度 間接経費
研究成果展開事業 （B）ひらめき☆と きめきサイエンス	新規	機械工学科	石原 敦	500,000 円	0 円
基盤研究（C）	新規	生命環境化学科	本郷 照久	1,300,000 円	390,000 円
挑戦的研究（萌芽）	新規	先端科学研究所	丹羽 修	1,700,000 円	510,000 円
挑戦的研究（萌芽）	新規	先端科学研究所	内田 正哉	4,500,000 円	1,350,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	1,300,000 円	390,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	800,000 円	240,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	有谷 博文	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	長谷部 靖	300,000 円	90,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	曹 建庭	700,000 円	210,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	大山 航	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	望月 義彦	2,586,086 円	120,000 円
計			11 件	14,886,086 円	3,660,000 円

9. 産業技術展示会等への研究展示計画

令和3（2021）年度（計画）

- ① イノベーションジャパン出展（8月頃）
- ② 諏訪圏工業メッセ出展（10月頃）
- ③ 埼玉県 産学連携技術シーズ発表会（10月頃）
- ④ 埼玉県彩の国ビジネスアリーナ出展（1月頃）
- ⑤ 埼玉県 産学連携技術シーズ発表会（3月頃）

令和2（2020）年度（実績）

- ① 『水陸両用無人運転技術の開発 ～ハッ場スマートモビリティ～』の実証実験 プロジェクト共同記者会見 パネル展示（7月）

- ② イノベーションジャパン 2020 (8月) オンライン展示
- ③ 2020 さかきバーチャルモノづくり展(Web)
- ④ 諏訪圏工業メッセ出展 2020 (10月) オンライン展示
- ⑤ 塩尻型次世代モビリティサービス実証プロジェクト パネル展示 (11月)

10. 地域交流実績及び地域交流計画

- ①市民のための公開講座及び心理学セミナー
 - ・令和3(2021)年度(計画): オンラインにて開催予定
 - ・令和2(2020)年度(実績): コロナの影響により開催中止
- ②先端科学研究所協力会講演会及び企業見学会
 - ・令和3(2021)年度(計画)
 - 講演会 年2回(6月・10月)
 - 企業見学会 年1回(12月)
 - セミナー 年1回(12月)
 - ・令和2(2020)年度(実績)
 - 講演会 12月4日 Sensor & IoT Consortium 公開シンポジウム 2020
 - 3月10日 オンラインにて開催(予定)
 - タイトル:「最近の宇宙開発トピック～ロケットエンジンを中心に～」
 - 講師: 福地亜宝郎(機械工学科准教授)
 - 企業見学会 12月: コロナの影響により開催中止
- ③「科学と仏教思想研究センター」研究セミナー及び公開セミナー
 - ・令和3(2021)年度(計画): 開催予定
 - ・令和2(2020)年度(実績): オンラインにて開催
(※公開セミナーはコロナの影響により開催中止)
 - 6月26日 第1回研究会
 - 9月25日 第2回研究会
 - 11月27日 第3回研究会
 - 2月26日 第4回研究会
- ④子ども大学ふかや(深谷市教育委員会との協働事業)
 - (子ども大学ふかや学長: 内山俊一 学長/実行委員長: 教育研究協力課 笠原貴弘)
 - ・令和3(2021)年度(計画): 深谷市教育委員会と協議し、オンラインでの開催を検討予定
 - ・令和2(2020)年度(実績): 深谷市内の小学校4年生～6年生を対象とし定員50名の募集計画を予定するもコロナの影響により開催中止
- ⑤子ども大学よりい(寄居町教育委員会から講師派遣依頼)
 - ・令和3(2021)年度(計画): 寄居町教育委員会から講師派遣依頼があった際に検討を行う
 - ・令和2(2020)年度(実績): 2月6日・13日・27日の3日間をかけた開催を予定していたが、コロナの影響により開催中止
- ⑥高等学校等との連携推進(高大連携・教育連携)
 - 協定校数: 38校 [内訳] 高校36校・専門学校1校・日本語学校1校
 - ・令和3(2021)年度(計画): 連携校と協議し実施を検討
 - ・令和2(2020)年度(実績): 協定校との体験授業等実施(3校)
 - [オンライン1校 対面2校]
 - 工業高校学習成果研究発表会指導講評依頼(1校)
 - ※その他の連携校からの依頼(連携授業・インターンシップ等)により計画するも、コロナの影響により開催中止

⑦深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。

- ・ふかや市民大学（生涯学習）へ運営委員及び講師の派遣
- ・深谷市社会教育委員会へ委員の派遣
- ・メンタルヘルス相談業務委託の継続（臨床心理センター）
- ・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
- ・日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催

⑧長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携推進

- ・埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」
- ・「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
- ・「さかきふれあい大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
- ・坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
- ・坂城高校大学見学
- ・坂城町との連携協定に基づく連携会議
- ・坂城高校を発展させる会

⑨国際交流計画

日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」JST 主催

- ・令和 3（2021）年度（計画）：申請を検討する
- ・令和 2（2020）年度（実績）：コロナの影響により申請を見送り

1 1. 就職計画

（地域交流）

①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業

- ・坂城町企業見学会（9月に2日間実施予定）
- ・坂城町企業の企業研究セミナー参加（2月開催予定）
- ・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10月開催予定）

②各都道府県との「Uターン就職促進に関する協定」における事業（群馬県／栃木県／長野県）

- ・県内企業との情報交換会参加（10月以降開催予定）

③諏訪工業メッセ関連事業

- ・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10月予定）

（学生支援講座・ガイダンス）

①公務員対策講座（8月～9月、2月開催予定）

②学年別就職ガイダンス（4月～2月複数回実施予定）

③インターンシップガイダンス・インターンシップマナー講座（5月開催予定）

④埼玉県大学就職問題協議会主催：17大学合同企業説明会（8月開催予定）

⑤就活マナー・面接実技研修（12月～複数回開催予定／合宿形式、一日研修）

⑥スーツ着こなし講座（10月予定）

⑦SAIKOドリル（6月～SPI/CAB・GAB/クレペリン/webテスト/玉手箱 他）

⑧筆記試験集中対策講座（SPI/1月実施予定）

（学内合同企業説明会等）

①4年生向け合同企業説明会（4月・9月開催予定）

②3年生向け業界研究セミナー（12月開催予定）

③3年生向け企業研究セミナー（2月開催予定）

④3年生向け合同企業説明会（3月開催予定）

⑤ミニ合同説明会（4月～2月複数回実施予定）

⑥個別会社説明会（4月～2月複数回実施予定）

（保護者向け就職ガイダンス）

①3年生 保護者向け就職ガイダンス（5月1回開催予定）

（学生支援事業）

①キャリアカウンセラーによる相談（4月～3月）

②工学部学生対象工場見学会（埼玉・群馬 各県2社見学予定）

（情報交換会及び加盟団体）

①県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加

②埼玉県大学就職問題協議会

③関東地区大学理工系就職研究会

Ⅲ. 高校の部

1. 中長期ビジョン策定の背景

本校では、平成28（2016）年度入学生より「正智深谷高校イノベーション計画（SHIP）」を旗印として掲げ、教育活動を続けてきました。SHIPを掲げた当初、大学入試センター試験に代わる新テストの導入をはじめとする令和2（2020）年度からの大学入試改革への対応を最大の課題としてきました。実施前年になり、文部科学省の方針が大幅に見直され、「英語外部試験の採用」ならびに「数学・国語の記述試験導入」については見送られることとなりましたが、大学入試自体が「思考力」や「表現力」を重視する方向に舵を切り、従来の知識重視型からの転換を図りつつあることは明らかになっています。こうした変化に対応すべく、3年間をかけてここまで段階的に移行を進めてきました。令和2（2020）年度入学生をもって、全学年が新しい系統・コースに統一され、学校全体で新しい教育活動に取り組んでいます。従来の教育活動に加えて、タブレット端末（iPad）の導入、土曜講座の設定、探求型修学旅行を軸としたG-CATプログラムの採用など、求められる学力の変化に合わせた新たな教育への取組みを進めています。

高校現場では、新たに改定された新学習指導要領の運用が、令和4（2022）年から段階的に始まります。同年、本校は創立70周年という節目の年を迎えます。これを契機に新たに中長期ビジョンを策定し、今後の教育活動を更に一步進めるための指針としていきたいと考えています。

2. 今後の目標

新型コロナウイルスの感染拡大の終息が未だ見通せない中、まもなく令和3（2021）年度が始まるうとしています。感染者数の増減は一進一退を繰り返し、気温の上昇と共に再び増加傾向に入ることが懸念される中、ワクチン接種も急速に広がり始め、感染拡大に歯止めがかかることを祈るばかりです。現時点では新年度の入学者数が確定していませんが、募集定員を大きく上回るものがほぼ確実視されています。これまでの本校の教育活動が評価されていることはもちろんですが、臨時休校下での早期のオンライン授業対応をはじめとするコロナ禍での教育活動への評価であることを実感しています。今後、公私問わず多くの学校でICTの導入が加速的に進んでいく中で他校との差別化を図っていくためにはさらに一步も二歩も進んだ教育活動に取り組んでいくことが不可欠です。新型コロナウイルスの影響が今後も数年は続くと思定される中、いかなる状況においても教育活動を継続していくためには、従来の対面授業とオンライン授業を並行したハイブリッド型授業を整備しておく必要があります。同時に普段の授業を見直し、学力の3要素を総合的に高める授業への転換も図っていか

ければなりません。「不易流行」の言葉にもある通り、これまでの教育活動の良い部分は継続し、改めるべき部分は勇気を持って見直していく姿勢が必要となります。

また、働き改革への取り組みを進めるためにも、我々の意識改革が必要となります。新年度はそのための環境整備を積極的に進めていきたいと考えています。同時に令和4（2022）年度の大幅な教育課程の変更に合わせて、様々な部分の見直しも検討していきます。

少子化傾向が続く中で、他校との差別化を図り安定的に募集定員を確保していくために、私たち教員同士がお互いを尊敬、尊重し、利他精神を持って新しい教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。

■教育目標

仏教精神に基づき、真理を追究し、和を尊び、
平和を重んずる規律正しい人間、智慧を求める人間を育成すること。

■校訓

せんちやく せんじゆ
選択 専修

■募集定員

系統	コース	募集定員	目安偏差値
特別進学系	Sコース	30名	65
	Hコース	90名	60
総合進学系	Iコース	120名	50～55
	Pコース	120名	45～50

■行動原則

平凡な教師は言っけて聞かせる。	The mediocre teacher tells.
よい教師は説明する。	The good teacher explains.
優秀な教師はやっけてみせる。	The superior teacher demonstrates.
しかし、最高の教師は子どもの心に火をつける。	But, the great inspires.

William Arthur Ward（アメリカ／教育学者）

①圧倒的な当事者意識

- ・何事に対しても他人事ではなく、当事者意識を持って取り組む。
- ・批判的な立場を捨て、建設的な前向きな思考で物事に取り組んでいく。

②不易流行

- ・偏見や先入観を捨て、新たな視点で教育活動に取り組む。
- ・求められる学力の変化に対応した授業の実践。

③凡事徹底

- ・日常的な規範意識の定着（服装・身だしなみ・校則など）
- ・気持ちの良い挨拶、学習環境の整備と授業に臨む姿勢。
- ・感染防止対策の徹底。「マスク着用」「手洗いの励行」「教室の換気」「ソーシャルディスタンス」

④ハラスメントの撲滅

- ・パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、モラルハラスメントへの徹底対応。
（アンケートの実施・研修会の実施・相談窓口の設置）
- ・体罰の厳禁。行動、言動を意識する。

⑤ラポールの形成

- ・生徒との信頼関係の構築。
- ・教員同士の信頼関係の構築。

※ラポール → 心理学用。フランス語で「橋をかける」の意。
人と人との関係が和やか心の通い合った状態にあること。

■達成目標

①求められる学力の変化に合わせた授業力の強化

- ・「学力の3要素」を向上させるための授業への取り組みを進める。
 - 「知識・技能」
 - 「思考力・判断力・表現力」
 - 「主体性・多様性・協働性」
- ・従来の授業スタイルを再考し、生徒が主体的に思考を深める授業スタイルへの転換を図る。
- ・iPad活用の次なるステージへ。
 - iPadで出来ること（授業の効率化）。
 - iPadでしか出来ないこと（教育効果の向上）。

②ウェブを中心とした生徒募集活動への転換

- ・ホームページ、SNS等を戦略的に活用し、効果的かつ効率的な募集活動を展開する。
- ・Googleアナリティクス等を活用し、データに基づいたウェブの活用を図る。
- ・「固定観念」「思い込み」からの脱却。

③SDGs（持続可能な達成目標）実現に向けた取り組み。

- ・GCATを通じてSDGsの基本理念を学び、日常的な行動に移していく。
- ・全ての教育活動をSDGsに紐付け、教員同士がアイデアを出し合いながら具体的な行動に移す。

④GCAT（Global Career Academic Task）プログラムの進化

- ・「SDGs」「交流」「プレゼンテーション」を軸として、「学力の3要素」の向上を目指す本校独自の教育プログラムとして、学校全体として取り組み、今後さらに発展させていきたい。
- ・「探求学習」として、「総合的な探求の時間」を視野入れて取り組みを広げていきたい。

⑤一人一人の希望進路の実現

- ・大学入試改革の2年目。共通テストをはじめとする大学入試の変化に対応する指導を実践。
- ・新型コロナウイルスの影響による、社会情勢の変化見極めた適切な進路指導を行う。
- ・キャリアプランの形成を意識した進路指導の実践。

■正智深谷高校が育てたい人間像《3つのミッション》

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ①自己肯定感を育み、他者を認めることができる人 | (Compassion 思いやり) |
| ②問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人 | (Communication コミュニケーション) |
| ③ビジョン(夢)を持ち、そのための努力を継続できる人 | (Challenge 挑戦) |

①「自己肯定感を育み、他者を認めることができる人」を育てる

- ・生徒の「承認欲求」を十分に満たすアプローチを意識して実行する。
(例) 毎朝 SHR でフルネームを呼んで出席を取る。毎日必ず全員の生徒へひと声掛けるなど。
- ・人格を否定するような指導、感情的で一方的な指導は厳禁。
「怒る」指導から、「叱る」「諭す」指導への意識改革を図る。
体罰はもちろん、怒鳴り散らす、著しく乱暴な言葉遣いをする等の指導は厳禁とする。
- ・各教員の実践や取り組みを批判せず、お互いの実践を認め合いながらよりよい教育を模索していく。

②「問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人」を育てる

- ・思いやりの気持ちを常に忘れず、クラスでの活動を通して周囲に貢献することに積極的に取り組む。
(例) ボランティア活動へ参加する・進んでゴミを拾う・日常の清掃業務へ積極的に取り組むなど。
- ・文化祭などの学校行事を通じて、協働して取り組む喜びを知ると共に協力することの大切さを知る。

③「ビジョン(夢)を持ち、そのための努力を継続できる人」を育てる

- ・進路講演会や GCAT プログラムなどを活用し、自分のキャリアビジョンの構築を目指す。
- ・進路講演会を有効に活用し、当事者意識を持って自分の進路を、自分自身で見つける努力をする。

■教員の行動指針

教師は「教える職人」「学びの専門家」「あるべき大人の見本」

①「教える職人」として

- ・日頃より教材研究に努め、指導力の向上を図る。 → 全ての基本となる授業力の向上
- ・iPad 活用など新しい教育活動に対して固定観念を捨て、積極的に取り組みスキルアップを図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実践のために、一方通行でない授業を意識し、実践していく。

- ・授業診断や研究授業を積極的に活用し、教師同士の研鑽の機会とする。

②「学びの専門家」として

- ・常にアンテナを高くし、教育関連情報などの収集に努め、それらを実践に生かす。
- ・多様化する生徒へ対応するための指導法（コーチング・エンパワメントなど）について、研鑽に努める。
- ・iPad の活用や双方向型授業、思考型授業を意識し、その向上を常に図る。
- ・教師は「教育のプロ」。
分かりやすい授業はもちろん、如何に生徒にやる気を出させるかを常に意識して授業を行う。

③「あるべき大人の見本」として

- ・気持ちの良い挨拶を教員から徹底して実行する（年令・立場・人間関係問わず）。
- ・「当たり前前」の姿を「当たり前前」にする。教員の常識は、世間の非常識ではない。
- ・清潔感を持った身だしなみを常に心掛ける（服装・整髪・髭を剃る／整える・酒／タバコの臭い等）。
- ・常に丁寧な言葉遣いを心掛け、お互いが気持ちよく会話ができるよう意識する。
- ・教員間の呼び合いは「〇〇先生」「〇〇さん」で統一する。
愛称、ちゃん付け、呼び捨て、「お前」などの呼び方は厳禁。常に社会人であることを意識する。
- ・呼び出し放送には必ず「〇〇さん」「〇〇くん」を付ける。
- ・職員室は職場であることを常に意識し、授業や生徒指導に無関係な個人的行為は厳禁とする。
（無関係な音楽や動画視聴・コピー・写真印刷・ダビング・インターネットの私的活用など）。
- ・個人情報の取り扱いには十分注意し、個人データの学外持ち出しは厳禁とする。
- ・重要な情報共有の場である職員会議は、可能な限り出席する（欠席する際は、教頭へ必ず報告する）。
- ・教育者として我々の「言動」「行動」の全てが、保護者や地域より見られていることを忘れない。その姿が学校の評価となり、生徒募集に繋がっていくことを常に意識する（生徒・保護者・地域）。

■具体的な取り組み

①授業診断の実施

授業診断の第一人者として、年間 500 本以上の授業を診ている（株）エデュフィールドの光延 栄治氏とアドバイザー契約を結び、本校教員の授業力の向上を図っています。2021 年度は 1 月末の研究授業をメインとし、今年度挙げられた課題の克服を図っていきます。学力の 3 要素を高めるために、従来の授業への固定観念を捨て、双方向で思考させる授業の実現を目指していきます。

②G-CAT プログラム

「G-CAT プログラム」は「Global Career Academic Task」の頭文字をとった本校オリジナルの教育プログラムです。3 年間を通して、キャリア教育とグローバル教育を連動させ、将来の進路希望（キャリアプラン）の構築と実現を目指す内容となっています。共通テーマとして、「SDGs（持続可能な開発目標）」「交流」「プレゼンテーション」を掲げ、それぞれのプログラムを行っています。国内外の様々な企業や NPO 団体、教育機関と連携しながら、単なる教育活動としてだけでなく、未来へつながる社会貢献活動も含めたプログラムを構成しています。2 年生の 2 月に実施する「スタディツアー（探求型修学旅行）」を最大のメインとし、3 年間を通じた学びの機

会としています。G-CAT プログラムを通じて、早期に自身のキャリアプランを確立し、自ら主体的に問題解決を図る姿勢を養うことを最大の目標としています。

実施時期	行事	内容
1年	4月 キックオフセミナー	入学直後の段階で、本校の教育の根幹となる「宗教教育」「ICT教育」「SDGs」「コミュニケーション」について学ぶ機会としています。クラスの垣根を越えてグループ編成をするなど、様々な手法によって交流を深めます。
	4月 SDGs セミナー	SDGs（持続可能な開発目標）の基本的理念について学び、具体的な行動に移すための準備を整えます。
	10月 シゴトノチカラ	社会人・大学生・本校生徒によるグループワークを通して、働くことの意味と価値について学びます。
	11月 企業訪問プログラム	生徒の関心に合わせた都内 50 社以上の企業を実際に訪問し、将来の職業選択の参考とする機会としています。事前指導にはビジネスマナーについても学びます。
	2月 深谷アハサダプロジェクト	フィールドワークを中心に、深谷の隠れた魅力を掘り下げ、プレゼンをします。ポスターセッションも行います。
2年	6月 SDGs セミナー	1年次に学んだ SDGs について、スタディーツアーでどう実現するかを考える内容となっています。
	2月 スタディーツアー	GCAT のメイン行事である探求型修学旅行。国内外 6 コースから選択し、希望コースのツアーに参加します。観光目的の修学力ではなく、事前指導を通じて現地での実践テーマを決め、その実現が最大のミッションとなります。
3年	6月 GCAT フェス	スタディーツアーでの学びを整理し、それをプレゼンテーションすることで振り返る機会としています。聴衆となる下級生は、その発表を見て各コースの参考とします。

③地域連携

- ・深谷ロータリークラブとの「駅前花壇の植え替え」や近隣の桜ヶ丘小学校の「さくらっこサポーターズ」などの活動を通じて、地域との交流を深める機会としていきます。
- ・ボランティア活動の一環として、深谷市内の NPO 団体が運営する「こども食堂」の手伝いや市主催の高齢者対象の「LINE 教室」などの運営補助などを行っています

④宗教研修

- ・学校行事として、年間 3 回（精霊会／7 月、法然忌／10 月、成道会／12 月）宗教行事を行います。それぞれの法要の意味を理解することを通じて、建学の精神の理解を深め、利他精神を学ぶ機会としています。
- ・成道会（12 月）の法要終了後、様々な分野で活躍される方々を講師としてお迎えした講演会を実施します。
令和 2（2020）年度は、アジアでの医療支援に従事する吉岡秀人氏（ジャパンハート代表）を講師としてお迎えしました。

⑤今後のスクールバスについて

- ・今年度で現行の 6 コースでの運行は終了となります。令和 4（2022）年度より、4 コースでの無料運行となります。今後の運行については、入学生の動向を見ながら、コースの維持と縮小について検討していきます。